

柔道整復師国家試験科目一般臨床医学における出題傾向

末吉 祐介, 松本 揚, 大澤 裕行, 野田 哲由
田村 哲也, 岡村 知明, 田辺 達磨, 角田 佳貴
了徳寺大学・健康科学部整復・医療トレーナー学科

要旨

【目的】柔道整復師国家試験における教育効果の向上を目的として、第14回～第24回柔道整復師国家試験で出題された一般臨床医学の出題傾向の分類を行った。

【対象】第14回～第24回の柔道整復師国家試験において出題された一般臨床医学の問題264問（必修問題24問，一般問題242問）を対象とした。対象とした264問について、柔道整復師国家試験出題基準に基づき分類した。

【結果】第14回～第24回において出題された264問のうち、総論からの出題が125問（47.3%）、各論からの出題が139問（52.7%）であった。総論で最も多く出題された項目は視診の59問（47.2%）、各論で最も出題数が多かった項目は消化器疾患の21問（15.1%）であった。

【考察】今回の調査では、総論の項目で視診が最も多く出題されていた。総論の国家試験対策を考える上で、まずは視診を学習することが重要であると考えられる。

キーワード：柔道整復師国家試験，一般臨床医学，国家試験対策

The tendency in the national examinations general clinical medicine for Judo Therapy Practioners

Yusuke Sueyoshi, Yo Matsumoto, Osawa Hiroyuki, Tetsuyoshi Noda, Tetsuya Tamura, Tomoaki Okamura,
Tatsuma Tanabe, Yoshiki Tsunoda

Department of Judotherapy and Sports Medicine, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University

Abstract

The purpose of this study was to analyzed tendency in the National Examinations for General Clinical Medicine for Judo Therapy Practioners. We analyzed the 14th-24th national examinations for judo therapist of the 264 questions. The national examinations standard was based on, and 264 questions was classified. The result revealed that the most questions of the general remarks was inspection 47.2%, and most questions of the each argument was gastrointestinal disease 15.1%. In this investigation, the most questions was inspection in the general remarks. In considering the general examination of national examination, it is considered important to learn the inspection.

Keywords : national examinations for judo therapist, general clinical medicine, countermeasure of the national examination

I. 背景

柔道整復師を養成する大学において、国家試験合格率は大きな意味をもつ。平成26年度の就業柔道整復師は63,873人で前回に比べて5,300人(9.0%)増加している¹⁾。平成16年度の就業柔道整復師が35,077人であったことを考えると、10年間で約1.8倍の増加となっている。柔道整復師の数が増えた背景には養成施設の増加がある。平成10年度14校であった養成施設は平成27年度には109校と実に8倍近く増えており、柔道整復師の数は今後も増え続けることが想像できる。養成施設の増加はそのまま定員を確保する競争が増すことを意味する。質の良い学生の確保は養成施設にとって喫緊の課題であり、その対策が必要である。また、学生目線に立てば、養成施設の状態は養成施設を選ぶ基準になるであろう。松本ら²⁾は養成施設で行われている国家試験対策が国家試験合格率に効果をあげていないと考察しており、国家試験対策を見直す必要があると考えられる。

ここで柔道整復師国家試験の概要を説明する。柔道整復師国家試験（以下、国家試験）では、30問の必修問題と200問の一般問題の計230問で構成され、必修問題は8割、一般問題は6割以上の得点で合格とされる。国家試験問題は柔道整復師国家試験出題基準³⁾に基づいて出題されており、試験科目は解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学、柔道整復理論、関係法規の11科目で構成される。

国家試験科目のひとつである一般臨床医学は診察（医療面接、視診、打診、触診、生命徴候、反射検査、代表的な臨床症状）、検査法、主要な疾患（呼吸器、循環器、消化器、肝・胆・膵、内分泌、血液・造血器、腎・泌尿器、神経、感染症・性病、リウマチ性・アレルギー性・免疫不全、環境要因による疾患）で構成されている。国家試験問題230問のうち24問を一般臨床医学が占めている。30問の必修問題のうち2問が、200問の一般問題では22問を一般臨床医学が構成しており、合計24問が出題されている。

高齢化が進む現在、国民の健康維持・増進は医療に関わる者にとって課題となっている。古くから柔道整復師は「ほねつぎ」として広く知られており、現在は厚生労働省が認可した専門の養成施設が文部科学省の指定した4年生大学で基礎医学、専門科目を履修し国家試験を合格することで免許を与えられる国家資格のひとつとなっている。柔道整復師は幅広い分野で活躍しており、その知識と技術を活かし、地域に密着した医療者として国民に広く根付いている。その業務の特殊性から柔道整復師は幅広い知識と技術の習得が必要とされている。柔道整復師は業務範囲である骨折、脱臼、打撲、捻挫といった急性期の外傷の知識だけではなく、日々進歩する医学・医療をふまえた知識の習得が必要とされる。一般臨床医学は、診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を学ぶものであり、同時に柔道整復師が臨床現場において注意を払わなければならない症状、所見の理解を深める学問である。この科目の教育効果を向上させることは、柔道整復師を養成する教育機関である本学においても必要不可欠であると考えられる。

過去、国家試験で出題された問題を分類、分析することは国家試験対策を考える上で重要である。出題頻度の多い項目を重点的に学習することで、国家試験対策をより効率的に行うことができ、国家試験合格率向上に役立つと考えられる。国家試験問題の出題傾向に関する報告では、柔道整復理論の出題傾向を分類した報告が4件^{2,4,6)}、生理学⁷⁾の出題傾向を分類した報告が1件、国家試験対策用教材（一般臨床医学）⁸⁾がある。教材による国家試験出題傾向の分類では、第1回～第20回の国家試験問題を対象に分類を行っている。国家試験対策を考える上で、最近の出題傾向を知ることは重要であると考え、今回、我々は現在の試験形式となった第14回～第24回に絞って一般臨床医学の出題傾向の分類を行った。

Ⅱ. 目的

柔道整復師国家試験科目である一般臨床医学の出題傾向を分類することである。また、それによる国家試験対策の教育効果向上を目的とする。

Ⅲ. 対象・方法

第14回～第24回の柔道整復師国家試験において出題された一般臨床医学の問題264問（必修問題24問、一般問題242問）を対象とした。対象とした264問について、柔道整復師国家試験出題基準³⁾に基づき分類した。

Ⅳ. 結果

第14回～第24回における出題された264問のうち、総論（診察概論，診察各論，検査法）からの出題が125問（47.3%），各論（消化器，呼吸器，循環器，血液，内分泌・代謝，膠原病，腎・尿路，神経系，その他疾患）からの出題が139問（52.7%）であった（表1）。

総論125問を大項目に沿って分類した結果，最も多く出題された項目は視診の59問（47.2%）であった。次いで触診が20問（16.0%）であり，生命徴候と反射検査が12問（9.6%）であった（表2）。

各論139問を大項目に沿って分類した結果，最も多く出題された項目は消化器疾患の21問（15.1%）であった。次いで循環器疾患が20問（14.4%）であり，神経系疾患が18問（12.9%）であった（表3）。

総論と各論の中で最も出題数が多かった項目は視診の59問である。視診59問をさらに中項目で分類すると，皮膚の状態が14問（23.7%）と最も多く出題されており，次いで頭部・顔面，体位と姿勢がともに10問（16.9%）の出題であった（表4）。

表1 総論および各論における出題数

	出題数	%
総論 (診察概論，診察各論，検査法)	125	47.3%
各論 (消化器，呼吸器，循環器，血液，内分泌・代謝，膠原病， 腎・尿路，神経系，その他疾患)	139	52.7%
合計	264	100.0%

表2 一般臨床医学総論における国家試験問題の出題割合（第14回～第24回国家試験）

大項目	出題数	%
診察概論	0	0.0%
医療面接	2	1.6%
視診	59	47.2%
打診	7	5.6%
聴診	5	4.0%
触診	20	16.0%
生命徴候	12	9.6%
感覚検査	7	5.6%
反射検査	12	9.6%
合計	125	100.0%

表3 一般臨床医学各論における国家試験問題の出題割合（第14回～第24回国家試験）

大項目	出題数	%
消化器疾患	21	15.1%
呼吸気疾患	11	7.9%
循環器疾患	20	14.4%
血液疾患	15	10.8%
内分泌・代謝疾患	17	12.2%
膠原病	17	12.2%
腎・尿路疾患	13	9.4%
神経系疾患	18	12.9%
その他疾患	7	5.0%
合計	139	100.0%

表4 視診の出題割合（第14回～第24回国家試験）

視診項目	出題数	%
意義と方法	0	0.0%
体格と体型	4	6.8%
体位と姿勢	10	16.9%
栄養状態	0	0.0%
精神状態	2	3.4%
異常運動	7	11.9%
歩行	6	10.2%
皮膚の状態	14	23.7%
頭部・顔面	10	16.9%
頸部	1	1.7%
胸部	3	5.1%
腹部	2	3.4%
背部・腰部	0	0.0%
四肢	0	0.0%
合計	59	100.0%

V. 考察

過去、一般臨床医学の出題率を分類したものは柔道整復師国家試験対策用教材である「柔道整復師国家試験重点マスター—一般臨床医学第3版ガイドライン準拠」(以下、重点マスター)⁸⁾がある。これによると、今回の我々の分類結果とは異なった分類方法と出題率となっている(表5)。大きく異なる点は2つある。①我々が問題をひとつの単位として分類を行ったのに対して、重点マスターでは問題の選択肢ごとに分類した点で相違が認められる点。②我々が現在の試験形式となった第14回～第24回の国家試験問題を対象としたのに対して、重点マスターでは第1回～第20回の国家試験問題を対象にしている点である。今回、我々は分類の範囲を現在の試験形式が導入された第14回～第24回として分類を行った。第1回～第13回までを範囲に含めなかった理由として、第1回～第13回の国家試験問題が現在の試験形式とは異なること、最近の国家試験出題傾向から国家試験対策を行ったほうが、より効率的に学習できると考えたことが挙げられる。もちろん過去出題された全ての問題を解くことで学力は向上するだろう。しかし、範囲が膨大であり、学力レベルの低い学生や時間のない学生には向かないと考えられる。このような学生への国家試験対策には要点を絞った学習が必要である。以上のことから、我々は国家試験対策としては第14回～第24回の範囲で十分であると考えた。

表5 「柔道整復師国家試験重点マスター—一般臨床医学第3版ガイドライン準拠」による分類

項目		出題率 (%)
診察概論, 診察各論		33.5
主要な疾患	消化器疾患	9.7
	呼吸気疾患	5.7
	循環器疾患	5.9
	血液疾患	7.3
	内分泌・代謝疾患	14.9
	膠原病	5.9
	腎・尿路疾患	6.5
	神経系疾患	9.5
	その他疾患	1.1

※一般臨床医学国家試験大項目別出題率は、過去の国家試験問題の全選択肢を大項目別に分類して集計した。

今回の調査では、総論の項目では視診が最も多く出題されていた。視診は総論の約半数を占めており、他の項目と比べても明らかに出題数が多い。総論の国家試験対策を考える上で、まずは視診を学習することが重要であると考えられる。また、視診の出題範囲と各論の主要な疾患の出題範囲は重複する部分もあることから、視診だけでなく各論もしっかりと学習することが必要であろう。視診の出題が多い理由として、視診が臨床現場で特に必要とされる知識であることが考えられる。施術の際、患部だけでなく皮膚の色、体位や姿勢、歩行や顔つきなど視診から得られる情報は疾患の評価を行う上で不可欠な情報である。特に高齢者の多くは何かしらの基礎疾患がある可能性は高い。このため、骨折や脱臼の知識だけでなく、様々な疾患の知識が必要であることから、視診の出題が多いと考えられた。

視診をさらに細分化すると、皮膚の状態、頭部・顔面、体位と姿勢が多く出題されており、これらの項目が視診の中でも重要であることが推察される。臨床現場においてもこれらの項目は重要であることは疑いようがなく、試験問題として出題される可能性が高いと考えられ、国家試験対策が必要であると考えられる。

各論では総論における視診のような出題数の突出した項目はなく、各項目からバランスよく出題されている。従って各論の国家試験対策を行うにあたっては各項目を均一に学習する必要があると考えられる。

現在、我が国では少子高齢化に伴い、高齢者は毎年増加している⁹⁾。高齢化に伴う、高齢者の転倒の増加により今後、増々柔道整復師の需要は増大することが予想される。徒手での施術により薬害の恐れがない柔道整復術は接骨・ほねつぎとして古来から国民医療に貢献してきた。柔道整復術を行う柔道整復師にとって、西洋医学の知識は直接応用できるわけではない。しかし、日々、患者と向き合う柔道整復師が患者の変化を見逃さないことで、早期に医師への受診を促し、疾患の早期発見に役立てることができる。一般臨床医学は国家試験において柔道整復理論、解剖学、生理学に次いで4番目に多い出題数をもつ科目であることから、国家試験対策としても重要であるが、臨床現場においても必須の知識であると考えられる。今後、さらに他の科目の出題傾向を調べていくことで、国家試験対策の一助としたい。

VI. まとめ

- 1) 第14回～第24回の柔道整復師国家試験で出題された一般臨床医学問題264問について国家試験出題基準に基づいて分類を行った。
- 2) 総論と各論ごとの大項目による出題分類を行った結果、総論で最も出題が多かった項目は視診59問(47.2%)であり、各論で最も出題が多かった項目は消化器疾患21問(15.1%)であった。
- 3) 総論では項目ごとの出題率に偏りがみられ、各論では各項目からバランスよく出題されていた。このことから総論での学習では出題率の高い項目を中心に学習し、各論では各項目をバランスよく学習することで教育効果が向上する可能性があると考えられた。

参考文献

- 1) 厚生労働省：平成26年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況，厚生労働省ホームページ，www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/14/dl/gaikyo.pdf（2016.11.29 19:00アクセス）
- 2) 松本揚，岡田隆，岡村知明ほか（2015）柔道整復師国家試験必修問題に出題された柔道整復理論の出題傾向。了徳寺大学研究紀要。9，97-101.
- 3) 公益社団法人柔道整復研修試験財団（2009）柔道整復師国家試験出題基準，医歯薬出版株式会社，東京。39-48.
- 4) 田辺達磨，松本揚，大澤裕行（2015）柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向-柔道整復理論に着目して-。了徳寺大学研究紀要。9，79-83.
- 5) 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治ほか（2016）第13回～第23回柔道整復師国家試験における必修問題の出題分析-柔道整復理論154問の分析より-。日本体育大学紀要。45，113-117.
- 6) 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治ほか（2016）第18回～第24回柔道整復師国家試験における一般問題の出題分析-柔道整復理論245問の分析より-。日本体育大学紀要。46，39-44.
- 7) 長濱節子（2016）柔道整復師国家試験問題生理学分野の傾向分析（2）-はり師・きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、理学療法士・作業療法士の各国家試験問題との比較傾向分析-。帝京平成大学紀要。27，25-37.
- 8) 小沢友紀雄，西村雅道（2012）柔道整復師国家試験重点マスター一般臨床医学第3版ガイドライン準拠医歯薬出版株式会社，東京。1.

9) 厚生労働省：日本の人口ピラミッドの変化, 厚生労働省ホームページ,

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/kaikaku_1.html

(2016.11.30 22:00アクセス)

(平成28年12月1日稿)

査読終了日 平成29年1月16日